

～『地域政策の経済学』正誤表～

第3刷で修正済み

P.42 下から3行目

誤) 1.53

正) 1.15

P.44 11行目

誤) 市場メカニズムが

正) 市場メカニズムを

P.54 2行目

誤) 上回り

正) 下回り

P.108 9～10行目

誤) 5000人を超え

正) 5000人以上で

P.110 最後の文章に続けて、以下の一文を加える

そして衰退した都心部に再開発などが行われ、うまくいけば再び都心に人が戻り始める**再都市化**を迎えることができます。

P.111 表6-1を以下のものに差し替える

中心都市	郊外	大都市圏	状況	段階
+	-	+	絶対的集中	都市化
++	+	++	相対的集中	
+	++	++	相対的分散	郊外化
-	+	+	絶対的分散	
-	+	-	絶対的分散	逆都市化
--	-	--	相対的分散	
-	--	--	相対的集中	再都市化
+	-	-	絶対的集中	

P.114、115 の 4 つの図の縦軸のラベル

誤) 通勤費・地代節約額

正) 限界通勤費・限界地代節約額

P.116 22 行目

誤) ジェントリフィケーション（中産階級化）と呼ばれる

正) ジェントリフィケーションと呼ばれる

P.139 下から 8 行目

誤) 土地の保有コストを

正) 課税は土地の保有コストを

P.140 下から 2 行目から 1 行目にかけて

誤) ジェントリフィケーション（中産階級化）と呼ばれる

正) ジェントリフィケーションと呼ばれる

P.150 図の縦軸のラベル

誤) 便益・費用

正) 限界便益・限界費用

P.153 15 行目

誤) 美術館や図書館といった

正) 美術館のような

P.157 図の縦軸のラベル

誤) 便益・費用

正) 限界便益・限界費用

P.203 下から 9 行目から最終行まで、以下の文章に差し替え

例えば労働生産性については 8866 円、男子比率要因は 1 万 3984 円、第三次産業比率は 1 万 9495 円だけ全国平均よりも神奈川県の高給与を高くしています。

これら 3 つの要因の合計は 4 万 2345 円となり、実際の全国平均との差 4 万 1500 円よりも大きくなります。これは 3 つの要因以外の「その他要因」が神奈川県の高給与を 845 円引き下げる方向に影響したからだと考えられます。なお、表 10-3、表 10-4 の数値は四捨五入しているため、計算は Excel の正確な数値を使ってください。